

復興支援広報紙

一燈

歌津地区
復興支援の会一燈

0226-36-2575

第 2 号

平成29年10月30日(月)発行



この復興支援広報紙は「みやぎ地域復興支援助成金」を受けて発行しています。

「みんなの子育てフェスタ」開催

8月26日、「歌津復興交流センター（旧伊里前保育所）」のグラウンドオーブンを兼ねた『第3回子育てフェスタ』が、親子連れなど約200人が参加して行われた。

この催しは「NPO法人ウイメンズアイ」と「うたつやってみるもん委員会」が主催。「支援の会一燈」が協力団体として開催したもの。屋内では消しゴムはんこ作り、スノードーム作成、太巻き作り

作り、ベビーマッサージなど、体験コーナーがありました。屋外では、竹で作った水鉄砲や楽器で遊ぶ「子どもあそび場」が人気でした。また、仮設テントではかき氷、手作りパンなどの販売コーナーも。お昼には流しそうめんもあり、親子で楽しんでいました。少子化が叫ばれている中、多くの子どもたちの歓声が交流センターに響く一日でした。



流しそうめんを悪戦苦闘しながらも笑顔で食べる子どもたち



太巻き作り



消しゴムはんこ作り



スノードーム作成



ベビーマッサージ

「歌津復興夏まつり」 10000人の人出で賑わう



8月6日(日)、「ハマレ歌津」を会場に、歌津夏まつりが開催されました。

8月の日照時間が例年の10%不足という異常気象の中、この日だけはお天気に恵まれ、予定通り開催されました。

午前10時から始まった第1部では、子どもたちによる「第4回スポーツめんこ大会」。正午から第2部「歌ゆいまる」ポストくんコンサート」として、「南三陸合同バンド(志津川中学校、歌津中学校、志津川高校)」、カラオケ大会、マドロス踊り、キッズダンスや舞踊、そしてサンシズジュニアの三線演奏、BEGINのコンサートなど。第3部は魚竜

太鼓の演奏と共に花火が打ち上げられました。くつきりと夜空に浮び上がる花火に大きな歓声と拍手。今年はいよいよ全集落の契約会と、多くの企業からの協賛をいただき「南三陸夢メッセージ花火」を打ち上げることができたと主催した実行委員会メンバーは感謝していました。



会場は多くの人で賑わった



前夜祭での吹奏楽演奏

第5回 「海の大運動会」開催

8月6日(日)、第5回となる「海の大運動会」が田の浦漁港を会場に、約200人が参加して開催されました。

この運動会は、田の浦の住民と復興支援でご縁をいただいた方々が企画、準備して開催しているものです。

特に、滋賀県立大学の学生たちが中心となって支援活動している「NPO法人田の浦ファンクラブ」と田の浦契約会が共催して毎年行っている、海を舞台にした運動会です。

海の玉入れ、海上徒競争、ホヤつめ大会、海の宝探し、海の綱渡りなど、海にこだわったプログラム構成がユニークです。陸上とは勝手が違う海上での競技だけに笑いを誘う場面が多く、競技者も見る者も楽しみ、海を満喫する運動会でした。



海上徒競争

「いきいき健康ひろば」 田の浦で開催

9月24日(日)午前11時より、田の浦交流センター(旧田の浦漁村センター)を会場に、田の浦ひまわり会と滋賀県立大学「未来看護塾」の共催で「いきいき健康交流広場」が開催され、約70名が参加しました。

被災地の人たちが健康で、なお一層元気に震災復興に取り組んでもらおうと、滋賀県立大学看護学部の一環として毎年開催している健康ひろばです。子ども向けには輪投げ、魚釣り、射的など。大人向けには足浴、ハンドマッサージ、血圧測定、そして歩け歩けを行った。食



ハンドマッサージ



足浴



支援金を贈呈する田中社長(右)

復興支援活動に役立てて！
埼玉県川口市
セントラルグループより10万円
10月3日、震災直後よりご支援をいただいている、埼玉県川口市(株)セントラルグループの田中徳兵衛社長が来訪され、社員の募金による支援金を届けていただきました。歌津地区の復興の様子、支援活動の内容についてご説明いたしました。ありがとうございました。



血圧測定

べる方は、田の浦のワカメを使用した中華スープにおにぎりを食べて、飲んで、軽度な運動に健康チェックと、生涯現役を目指す高齢者にとって、どれも大事なことです。参加者の皆さんは自分の孫のような学生たちのリードで、真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

第2回ネットワーク会議 開催される

9月27日(水)午後7時から、第2回ネットワーク会議が、20名の参加のもと開催されました。

震災から6年7ヶ月が過ぎ、住宅再建はほぼ先が見えてきたものの、漁港や防潮堤、河川堤防、国道などの復興工事は今も盛んに行われています。歌津地区内の工事が順調で、地域住民の安全が保たれるよう、互いに情報交換し、復興がスムーズに進む一助になるよう、年4回会議を開催するものです。会議内容は次のとおり。

- ① 報告事項
- ② 6月29日以降の行事報告
- ③ 8月28日現在の仮設住宅入居状況と解体計画について
- ④ 復興住宅への入居状況と防災集団移転(高台移転)団地での住宅建築状況の説明が行なわれた。
- ⑤ 今後の事業予定



各種報告に耳を傾ける参加者

伊里前低地部(伊里前

市街地国道45号線から海側、防潮堤の背後地)の整備計画については、平成28年3月30日に、当時のNPO法人夢未来まちづくり事業部長名で、伊里前まちづくり協議会長宛に要望書を提出。まちづくり協議会では、それに基づいた要望書を町に提出している。具体的内容としては、

- ① 三嶋神社の参道を確保し、一帯を祭りやイベントができる花のある公園に
- ② トイレ、上下水道を完備し、各種イベントやグラウンドゴルフなど老若男女が自由に利用できる、芝生の多目的広場の整備
- ③ シーフードバーベキューができる場所の設置
- ④ 防潮堤に上られる階段、海への道、カフェ、案内所などの整備です。

最近の新聞報道では、要望内容が実現できるよう、予算獲得のため、復興庁に要望しているとのことでした。更に要望を続けていきたい。

- ③ 各集落の課題や活動内容について
- ④ 町の補助金を活用してコミュニティセンターを建設する計画である。集落内の親睦・融和を図るため、グラウンドゴルフ講習会を開催した。

② 地区内で被災した人とならない人の意思疎通に欠けることがある。

◆馬場中山地区
毎月30名が集まり「お茶のみ会」を開催している。踊りの会のメンバーも協力している。

◆寄木地区
30名位が参加して防災訓練を行った。今回は高台だけだったが、次回は全戸参加とし、消防団や葦の浜地区にも声掛けをして実施したい。

◆伊里前団地
① 9月15日、伊里前団地集会所のこけら落とし行事として、民謡の先生一行をお呼びし、民謡を聴く会を開催した。

② 公園があるが、遊具がない。照明設備を使えるように町に要望している。

◆港地区
① 防潮堤、河川堤防、国道、漁集整備と、多くの復旧工事が施工されている。先日、国道と四谷線の交差点付近で人身事故が発生した。一般車の運転手も工事車両の運転手も焦っているように思う。安全運転を呼び掛けたい。

② 先日、葦の浜で行われたグラウンドゴルフ講習会に参加したが、高齢社会の中で心身ともに健康で暮らすためには、良いスポーツだと思ふ。

◆吉野沢仮設住宅
現在、吉野沢仮設に5世帯入居しているが、仮設

住宅付近の雑草対策に苦慮している。

◆名足復興住宅
① 今でも、月に4〜5団体のボランティアが来訪されるが、日中は勤めている人が多く、参加者が少なく、申し訳なく思う。

② 周囲の草刈りが大変である。高齢者が多く、自分たちで刈るのが難しいので、どなたかに頼んで刈らなければと考えている。

◆みねはた団地
現在約40世帯が暮らし始めている。先日は神奈川県秦野市のボランティアの方々に来訪され、200名位の参加で夏祭りを行った。また、「ちよい飲み会」を開催したところ、男女合わせて16名集まった。カラオケの機器も購入したので、今後継続していきたい。

◆各団体からの報告
① 9月26日、「たつがねっ子まつり」に沖縄県糸満市の青年会によるエイサー出演があり、盛り上った。

② 43年間使われたプールの改修工事が始まった。来年の夏は新しいプールで泳げる。

◆名足小学校
① マイコプラズマ流行のため、9月の児童の欠席0日が、1日だけだった。

② 今年の夏は雨が多く、校庭の雑草取りに苦慮した。

◆歌津中学校
① 10月20日、防災教育実

践発表会で「避難所運営訓練が開催されます。」

② その他、運動会、駅伝大会、中総体新人戦などの行事報告がありました。

◆歌津総合支所
① 8月6日に「歌津復興夏まつり」が行なわれ、1万人の人数で賑わった。

② 6月5日に歌津総合支所がオープン後、各種相談事業が多くなっている。

◆ボランティア団体東北ファミリア
8月来訪されたボランティアは150名を超えた。今後、10月29日歌中文化祭、12月クリスマスコンサートなどが予定されている。

以上のような報告があり、午後9時閉会した。

8月30日、平成の森仮設集会所を訪ね、地域交流会を開催した。平成の森仮設は20戸足らずの入居者で、集会所には毎日数名が集まっているそうで、この日も3名が参加。いずれの方も自宅建築の完成を待っているようでした。

7月21日、「みねはた団地」において、曹洞宗山形第三宗務所ボランティア協議会との共催で、地域交流会(行茶会)を実施しました。17名の参加のもと、真新しい集会所で、山形県庄内地方の漬物や茶菓子などを味わいながら、新しく始まった高台での暮らし等について話し合いました。



地域交流会(茶会等)

8月30日、平成の森仮設集会所を訪ね、地域交流会を開催した。平成の森仮設は20戸足らずの入居者で、集会所には毎日数名が集まっているそうで、この日も3名が参加。いずれの方も自宅建築の完成を待っているようでした。

9月11日、馬場・中山コミュニティセンターを会場に、山形県からのボランティアと共催で開催いたしました。住民、主催者合わせて31名の参加者でした。山形の手づくり菓子を漬物、飲み物。仮設の頃の行茶会の思い出に花が咲いていました。

8月17日 北里大学
8月21日 愛知学院大学学生ボランティア
8月24日 中央大学ボランティア
8月26日、神奈川県光
9月24日、パルシステ

ム埼玉
以上の方々が来訪し、復興交流センターにおいて講話を聴講いただきました。

「防炎学習スタディツアー」
8月17日 北里大学
8月21日 愛知学院大学学生ボランティア
8月24日 中央大学ボランティア
8月26日、神奈川県光
9月24日、パルシステ

「その他交流事業」
川口市「ばんばん祭」で物産交流
8月20日、埼玉県川口市「新郷工業団地協同組合」主催の「ばんばん祭」に今年も参加し、復興グッズの紹介とPR、復興の様子を報告してきました。

◆井の頭で防災研修会
9月9日、東京都三鷹市井の頭コミュニティセンターで開催された防災研修会において、25名の参加者を対象に、防災講演を行ってきました。

◆山形県「梅花大会」
10月14日、山形県鶴岡市にて復興グッズの紹介とPR、販売の物産交流を行ってきました。



「ばんばん祭」の様子

「雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ...」 寒サノ夏ハ オロオロ歩き...」
ご存知、宮沢賢治の詩の一節だが、今年の夏は異常だった。7月22日から36日間、連続雨が降り、南三陸町は日照時間が例年の10%にも満たなかった。

毎年お盆の頃までに穂揃期を迎えるが、「今年はダメダメ」と農家は諦めのムードだった。1ヘクタール程作付けする私も、陽の当たらない空を見上げ、田んぼの土手をオロオロ歩くばかりだった。ところがどうだろう。収穫の秋にも雨にたたられ、例年より遅い刈取りとなったが、それでも、何と昨年より収穫増になったのだ。不思議な年である。

7月20日頃までの高温が続いたことが良かったのか、冷害間違いなしと思われた米が穫れたのだ。戦国大名は、秋の取り入れが終わるまでは戦をしなかったという。稲の収穫真只中に奇策の衆議院解散である。いかに日本農業が軽んじられているかが分かる。

今年の天候よりも、国政を担うリーダーたちの基本姿勢が心配な、取り入れの秋になった。

「参った 参った」
「雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ...」 寒サノ夏ハ オロオロ歩き...」
ご存知、宮沢賢治の詩の一節だが、今年の夏は異常だった。7月22日から36日間、連続雨が降り、南三陸町は日照時間が例年の10%にも満たなかった。